

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
1・2 地球儀で日本を見てみよう	世界的な視野から多面的・多角的に日本の位置の特色を追究し、その特色を身に付けることができる。 世界的な視野から見ると日本の位置はどんな特色がみられるかに関心をもち、地球儀や地図を活用して調べることができる。	1, 世界各国の人は日本の位置をどのように表すのか、説明してみる。 <u>外国から見ると、日本はどんな位置にあるのだろうか</u> 2, 地球儀や、地図帳を使って考え、交流する。 ・太平洋や日本海などまわりすべてを海に囲まれている。 ・オーストラリアのずっと北にある。 ・ユーラシア大陸の東に位置している。 ・地球儀で見ると、アメリカの裏側にある。 3, 経度、緯度でみて日本の位置をみる。 4、さまざまな世界地図を見て、日本がどのような位置、形に見えるか調べ、交流する。 ・弓のように見える。 ・ヨーロッパから見ると東の果てに見える。 ・日本海も韓国で使われる地図では名前が違うことがわかる。 5, 本時の感想を書く	ア - 地球儀や地図を活用して日本がどの位置にあるのかを、一つ以上の方法で日本の位置を横にある大陸や別の国の地図を示し、比較対象をはっきりさせて説明できる。 <場面> 学習活動2、4の後 <方法> 発言内容 ノートへの記述	地球儀 地図帳 (教科書) 世界全図 (掲示) 地図帳や地球儀を使用して、さまざまな視点から日本を見させていく。 援助 海や大陸の名前を確認し、方角も理解した上で位置を読みとらせていく。
日本の位置について、いろいろな方法でできることがわかった。経線や緯線を用いる方法や大陸や海洋国など位置関係から説明できることがわかった。今まで日本が中心の地図しか見慣れてないので、世界から見るとさまざまな見方があるのだな。				
3 日本の国境をみてみよう	地図を適切に活用して日本の領域の特色を調べ、また国境に着目して領域をめぐる問題を考えることができる。	1, 日本地図を描いて、東京を中心に1000kmの円を描く。 ・日本は1000kmの間にほとんど入ってしまう。 ・日本の周辺は海だし、小さな国だ。 2、同じ時刻の各地の写真を見る。 ・同じ日本だとは思えない。 ・日本は長く広い国なのか。 <u>日本の国境はどのように表されているのだろうか</u> ・日本の回りは海で、海が境目だ。 3, 北方領土で2本の国境が引かれていることについて調べる。 ・ロシアも日本も領土だと思っただけははっきり決まっていないことがわかる。 4, 本時のまとめをする。	ウー 地球儀や地図をみて日本は回りが海であることや、日本の領域から日本の国境が海であることがわかる。 <場面> 活動2のなかで <方法> 発言内容 ノートへの記述	白地図 各地の写真 (教科書) 日本が長い国だということを写真で読み取り、国境を調べてみる。 援助 もう一度地球儀や地図をみて、日本の領土が不確定であることに気づかせる。
日本は周辺が海に囲まれている国だとわかった。1,000kmの範囲に入ってしまうが、同じ時刻での様子も違うし、けっこう広い国なのだ。でも北方領土のように領域をめぐる問題が残っているところもある。日本の国境はどこまでなのだろうか。日本の国土面積も調べてみたい。				
4 日本の広さを調べてみよう	世界的な視野から日本の国土面積や領域の広さを理解し、経済水域を手がかりにして、領土と領域の意味内容を考え、それらの日本の世界的な地位を追究することができる。	1, 日本と各国との国土面積を調べる。 ・日本は図で見ると小さいが意外と大きな国だ 2, 沖ノ鳥島の写真を見て気づいたことを書き、交流する。 ・小さな島だ。 ・この島に日本はお金をかけている。 ・ほかにもこのような島はあるのだろうか。 <u>沖の鳥島に3億円もかけたのはなぜだろうか。</u> 3、日本の端の島を調べる。 ・日本の周りは海だけど、海には小さい島がたくさんある。 ・領地の周りの海にも関係があるに違いない。 ・海に関係するから国の漁業に関係ある。 ・漁業のできる範囲も決まっているのだろう。 4、本時間のまとめをする。	イ - 日本の国土の領域の特色と変化を基に世界的視野から沖ノ鳥島に3億円もかけた理由を漁業に関することを考察している。 <場面> 活動2、3のなかで <方法> 発言内容 (エー) 地図や地球儀上で日本の国土の絶対的位置と相対的位置を理解することができる。 <場面> ノートまとめ	国土面積 (地図帳) 沖ノ鳥島の今の写真 (教科書) 沖ノ鳥島の以前の写真 沖ノ鳥島の様子から領域の重要さを知る 援助 沖ノ鳥島の工事前の写真を見せ、この島を必死に守ったことを読みとらせる。
日本の場合国境が陸地ではなく海上なので複雑だった。300億円かけて島を守ったのは経済水域での大きな問題になることを防ぐためだったのだろう。領土というのは大切だということがわかった。ひょっとしたら空にも国の範囲があるのではないかな。				

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
4 奈良時代の貴族と農民	貴族がぜいたくな食生活を送ることができた理由を考えたことを通して、貴族の生活は農民に重い負担をかける律令の仕組みに支えられていたことがわかるとともに、負担に苦しむ農民の逃亡や口分田の不足などから墾田永年私財法が出されて、公地公民制が崩れたことがわかる。	<p>1, 貴族と農民の食事を比較して、本時の学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族はいろいろなものを食べてぜいたくだ。 ・農民はすごく貧しい食事だ。 <p>どうして貴族と農民の間にこんなに大きな生活の差ができたのだろうか</p> <p>2, 学習課題について資料から調べて交流する。</p> <p>(貴族の生活について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族は特権を持ち、農民からの税が収入になる。 ・多様な食材は各地からの「調」だ。 ・位があがるほどよい暮らしができる。誰かが出世すれば一族が出世できる。だから激しい出世競争がおきたのだ。 ・貴族は農民たちを犠牲にしてぜいたくな暮らしをしていたのだ。 <p>(農民の生活について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重い負担に苦しんでいた農民たちの中には逃亡するものも出てきた。 <p>3, 墾田永年私財法の内容について理解し、その成立の背景について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逃亡などで口分田が不足してきた。 ・税をとるために、律令制度を変えてしまった。せっかく作った公地公民が崩れてきた。 <p>4, 本時のまとめをする</p>	<p>イ - 仲間との交流を通して、貴族と農民の生活の差を生む原因について、自分の考えを深めている。</p> <p><場面> 活動2のなかで <方法> 発言内容 仲間の意見を1つ以上取り入れながら、ぜいたくな貴族生活とそれを支える農民の関係を、説明できているか分析する。</p>	<p>「貴族の食事」 「農民の食事」 (教科書)</p> <p>「貴族の暮らし」 「農民の暮らし」 「防人の歌」 (以上、教科書)</p> <p>「公地公民制の崩れ」 (歴史年表資料)</p> <p>貴族と農民の立場を選択させて資料の読み取りをおこなう。</p> <p>援助 同じ立場を選択した生徒と、意見の交流をさせ、仲間の意見をメモさせる</p>
<p>朝廷の中で政治の中心にいた一部の政治家が貴族となり、全国の農民たちからいろいろな税を搾り取ってぜいたくな暮らしをしていた。貴族は自分たちの暮らしを守るために、他の貴族と争ったようだ。さらに、私有地を認める決まりを作るとは、せっかく作った律令制度を貴族がもう壊し始めている。農民は、貧しい生活をしていて、これでは農民がかわいそうだ。こんな世の中ではだめだ。</p>				
5 平安京と藤原氏	平安時代に藤原氏がどのようにして力をつけてきたかを調べることを通して、天皇家と血縁関係を結び、摂関政治をおこなったことや、公地公民制の崩れにより、多くの荘園を持つようになったことが理解できる。	<p>1, どのようにして奈良時代が終わったのか調べ、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道鏡事件など、政治が混乱した。 ・それまでの天皇の跡継ぎが途絶えた。 ・桓武天皇が平安京に都を移して、律令政治を建て直そうとした。 <p>2, 平安時代中ごろの主な動きを調べて、本時の学習課題を設定する。</p> <p>どのようにして藤原氏は力をつけたのだろうか</p> <p>3, 資料から藤原氏が力をつけてきた理由を調べ、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・娘を天皇の妻とし、天皇家と親戚関係になった。 ・摂政、関白の位について政治をおこなったから。 ・多くの土地を持ち、収入が多くてよい暮らしをしていた。 ・他の有力貴族を追い落としていった。 ・祖先が手柄を立てて出世した家柄であり、一族で高い位を独占していた。 ・藤原氏と仲良くなって出世しようとした貴族から、多くの贈り物を贈られたから。 <p>4, 本時のまとめをする</p>	<p>エ - 藤原氏と天皇家の関係が説明でき、摂関政治の基本的な仕組みについて理解している。</p> <p><場面> 終末・授業後 <方法> 本時のまとめのなかで、藤原氏の権力が「他氏排斥」「縁戚関係」「荘園収入」によって支えられていたことが説明できているか分析する。</p>	<p>歴史年表 (歴史年表資料)</p> <p>「藤原道長の栄華」 「藤原氏の公卿の増加」 「藤原氏の収入」 (以上、歴史年表資料)</p> <p>援助 黒板に書き出したキーワードを使って、ひとつひとつ簡条書きでノートに説明を書けるようにする</p>
<p>律令による国づくりが整った奈良時代が、混乱の中で終わっていき、それを立て直そうとして桓武天皇による政治が始まった。そのシンボルが平安京なのだ。でも、朝廷では貴族の出世競争がまだ続いていて、藤原氏の中で勝者となっていた。天皇家と親戚になった藤原氏が摂政や関白となって、朝廷の政治を思うように動かすようになった。その後の日本はどうなるのだろうか。</p>				

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
6 国 司 と 農 民	各地に有力農民が登場してきたことと国司をめぐる逸話をから地方の様子を読み取ることを通して、公地公民制の崩れが農民の成長をもたらしたことや、収奪に励む国司の実態が代表する地方政治の乱れがわかり、平安時代の社会を大きく概観できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1, 前時を振り返り、本時の学習課題を設定する。 藤原氏が栄えていたころ、地方の農民はどんな暮らしをしていたのだろうか 2, 農民の生活について、資料から調べ交流する。 ・開墾を進めて農地を広げ、二毛作をはじめ、作物の品種を増やして生産を増やした。 ・他の農民を指揮し、まとめる有力農民が現れた。 ・国司は自分の財産を増やそうとするばかりだ。 ・地方の政治はめっちゃくちゃになってしまった。 3, 当時の農民の思いを想像して交流する。 ・先祖代々地道に働いて財産を増やしてきたのに誰も守ってくれない。こんな世の中はいやだ。 ・誰かに守ってもらおうとしたら藤原氏が一番だ。やっぱり自分も贈り物をして藤原氏に近づきたくなるなあ。藤原氏が栄えるわけだ。 ・自分の財産を自分で守るしかないのか。武器を用意して自分の力で守るしかない。 ・政治に不満を持っている人が多い。その人たちをまとめれば世の中を変えることができるかもしれないぞ。 4, 荘園に関する教師の説明を聞き、本時のまとめをする。 	<p>エ - 有力農民が自分の財産を守ろうと努力していたことを理解し、5行程度の文で農民の思いを書くことができる。</p> <p><場面>活動3のなかで <方法> ノートへの記述から、資料から読み取ったことや前時までの学習に基づいて、農民の思いを考えることができているか分析する。</p>	<p>「有力農民の農業経営」 「地方政治の乱れ」 (以上、歴史年表資料)</p> <p>援助 自分が農民だったら、どうやって財産を守ろうとするか、仲間と話し合わせ、それをもとにノートに農民の思いを書かせる</p>
藤原氏が栄えていたころ、国司は税を取り上げようとするばかりで地方の政治は混乱していた。地道に努力して財産を増やしてきた有力農民は、自分の財産を自分で守らなくてはならないようだ。長い時間をかけてせっかく作り上げた律令制度も、平安時代の中ごろには形だけになってしまった。				
7 古 代 の 文 化	古代の文化を整理・比較することを通して、古代の文化には大陸から文化を積極的に取り入れた時期とそれを国風化して日本独特の文化を作り出した時期のあることがわかり、その既習の学習内容と関連付けて考えることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1, 奈良時代と平安時代の文化財を仲間わけして、本時の学習課題を設定する。 天平文化と国風文化の違いは何だろう 2, 各文化の特色の違いを調べ、交流する。 (奈良時代の文化) ・律令国家を目指していたので、熱心に中国から学んでいた。中国風の生活をするのが進んだ生活だったのではないかな。 ・遣隋使に始まる中国との交流によって中国やシルクロード経由で世界の文化が日本に流れ込んでいた。 ・文化に仏教の影響が強いが、平安時代とは違って仏教が政治に利用されていた。 (平安時代の文化) ・唐の衰えから遣唐使が廃止になり、日本が世界とつながりを持たなくなっていった。 ・他国との交流がなくなったので、それまでの文化を元にして日本人による文化が作り出されるようになった。 ・日本人の生活に合わせた文化が生まれてきた。 ・仏教が、政治の道具ではなく、密教による現世の利益や浄土教による死後の幸せを願ったように、個人の心を救う宗教になってきた。 3, 古代の文化の内容で、現在の日本人の生活に残っているものを考えて交流する。 ・東大寺などの寺院が残っている。 ・かな文字は欠かせない日本人の文字だ。 ・死後に極楽に行きたいのは今も同じだ。 	<p>イ - 政治の動きや社会背景の変化をもとに、奈良時代と平安時代の文化の特色を説明することができる。</p> <p><場面>活動2・授業後 <方法> 発言内容やノートの記述から、唐や西方の影響を強く受けている奈良時代の文化と、貴族の華やかな生活をもとにした国風の文化の特色が説明できているか内容を分析する。</p>	<p>「文化財を仲間わけしよう」 (自作資料) 「天平文化」 「国風文化」 (以上、教科書)</p> <p>援助 奈良時代と平安時代の社会の様子や、権力や財力を握っていた身分の生活を思い出させ、それをもとにして文化の特色を考えさせる</p>
律令国家建設を目指していた奈良時代には、中国やシルクロード経由の西域の文化が日本に多く見られる。文化も輸入されていたのだ。平安時代になり、唐が衰えたこともあるが日本人は中国のまねをやめて日本独自の文化をつくりだすようになった。中国から多くを学んだから日本らしさをつくることのできたのだろう。今の日本人の生活にもつながっているものが多い。平安時代の文化は貴族の文化であり、農民は参加していないのは、平安時代が貴族の時代だからだ。次の時代は、どんな世の中になるのだろうか。				

